

ヘンリー・フィールディング著
『百般登録事務所の構想』

圓月優子訳

【訳者まえがき】

ヘンリー・フィールディングが一七五一年二月二十一日に発表したこの「構想」は、彼が異母弟ジョンとともに前年の二月十九日に開設した百般登録事務所について、その趣意を説明したものである。一七五一年という年にはこの「構想」に加え、社会問題を扱ったパンフレット類のなかで質量ともに大きな位置を占める『近時漂盗の激増せる原因の調査』ならびにその対策についての建言若干¹⁾が一月に、また最後の長編小説『アミーリア』が十二月に出版されている。三年後に死を迎えるとは思えないほどの健筆ぶりを示すフィールディングである。

百般登録事務所とは各種の売買や契約などの仲介を仕事とするいわばベンチャー・ビジネスである。例えば職を求める人

や人材を求める人、モノを売却したい人や購入したい人などが、少額の登録料を支払ってこの事務所に自分の条件を登録しておく。ここでその情報が公開されることによって、条件に合致した相手が見つかりやすくなるという仕組みだ。事務所としては斡旋をおこなう情報の登録料を利益として得ることになる。本文にあるようにこの構想はモンテーニユのエッセイからヒントを得たものようだし、フィールディング以前にも別人によっていくらか試みられた形跡があるようだ。しかしながらここで兄ヘンリーがあらためて構築したアイディアに基づき弟ジョンが精力的に管理運営することにより、彼らの事業はかなりの成功をおさめ、この後、一連の模倣業者を生み出すこともなった。

利益をともなうビジネスにはちがいないのだが、この「構想」でフィールディングが開陳するのは、社会を構成するひとりひとりの才能を無駄にせず、最大限に生かすシステムを構築することによって、人々をより幸福に、社会をより豊かにしようという、いささか大層たらしい、しかし理想主義と現実感覚が混じり合った如何にもフィールディングらしい信念である。

翻訳にあたってはHenry Fielding, *The Covent-Garden Journal and A Plan of the Universal Register-Office*. Ed. Bertrand A. Goldgar. "The Wesleyan Edition of the Works of Henry Fielding." Middletown, CT: Wesleyan UP, 1988. を底本にした。事業の名称については袖山栄真氏が「集英社版世界文学全集」の第六巻（一九七九年）所収の翻訳『大盗ジョン・ナサン・ワイルド』に付された解説中で使用されている文言「百般斡旋事務所」を参考にさせていただいた。

.....

人間は生まれながらにして社会的な生き物だといわれるが、これは主としてふたつの理由によると思われる。ひとつには社会だけが人間の能力すべてを發揮する機会を与えるからであり、もうひとつには我々の本性が抱きうる欲望すべてを満たすことができるのは社会だけだからである。社会においてのみ、人間はめいめいに与えられた多彩な才能の恩恵を互いに享受することができるのだ。この共同体の構成員たちは、自然の肉体の構成部分と同様、それぞれが異なる役割や性質を持つものであり、すべてが合わさって全体のために貢献するのである。

もし仮にどこかの社会がこれまで、あるいは今でも非常によく統制されていて、どの構成員の才能も、全体の利となり得るのに使用されずに放っておかれたりせず、また構成員の救済可能な欠乏が救済されなままにされることがないとするれば、その社会は最高度の完成を達成したといえるだろう。社会はこの絶対的な完成を達成し得るし、もしこれが実際に達成されていないとしたら、その理由を突き止めて取り除くことは、おそらく非常に難しいといわれないとアリストテレスは考えているようだ。

提案された計画に話を進める前に、私はふたつの見解を明白なこととして言明する。

第一に、どんな社会にせよ、豊かさに比例してその構成員の欲望は増すのだということ。そして第二に、構成員が多ければ多いほど、こういつた欲望が満たされなままになる可能性は小さくなるということ。

第一の見解は、おそらく最初のうち逆説的な感じがするかもしれないが、個々人の場合でもってこれを検討するならば、それが真実であることがただちにわかるだろう。個々人の場合に我々がはつきり気付くのは、欲望が富とともに増すということである。そのため一千ポンドを所有する人の欲望は、その百倍の額を所有する人の欲望とは釣り合わないのだ。道徳的論者は実際、そのような欲望はどれも自然から生ずるものではないと言っだろう。しかしどこから生ずるにせよその欲望は

実際にあるのであって、それを満たすことがその欲望を持つかあるいは持つと思つてゐる人の幸福にとつては不可欠なことなのである。それは、いわゆる自然界には満ち溢れているわずかな必需品のどれかを供給することが、未開人にとつて不可欠であるのと同じである。それでも哲学者に敬意を払いつつ私はためらわずに次のように宣言しよう。ふところに十萬ポンド持つ人が、どれほどの欲望を持つにせよ、同時にそついつた欲望すべてを満たす能力を持つてゐるなら、貧しいディオゲネスのようなものよりずっと幸せな人である。

今や社会こそがそついつた欲望のすべてを生み出し、また同時に社会だけが商売あるいは取引と呼ばれるものを考案することによつて、その欲望を満たす方法を与えるのである。しかもなお、人間社会が人口の多い大都市や大きく広がつた郊外に成長するに従ひ、政治家は何かはまだ欠落しているのに気付いたのであつた。それは構成員のさまざまな欲望および才能を互いに知らせあふ方法である。その方法によつて構成員は互いに満たされるかもしれないのである。そこで考案されたのが、人と人のあいだで取引や商売をおこなつたための縁日や市場、取引所その他すべての公共の会合場であつて、そこでもつて社会に通常よくみられる欲望が折に触れて満たされるのである。

しかしながら、すべてこついつた方法は一般に広まつてはならず、これまでどころ不完全な状態である。社会が完全になるためには、構成員のさまざまな才能のどれも知られぬままであつたり活用されぬままであつてはならないし、また構成員のどんな欲望であれ、満たされないままであつてはならないのだ。このことは万人に用いられる寄り合い場を設置することによつてのみ達成されると思われ。そついつた場所において社会の構成員はみな自分の欲望や才能をすべて互いに話し合えるだろう。対価を支払いつる、あるいは支払う意思のあるひとなら誰にせよ、他の人が与えることができるはずのものを手に入れられないといつたことがないよつにするのである。

規模が大きく人口の多い都市や広範囲に拡張する共同体において、人間のあらゆる才能はまず確実にその構成員のあいだのどこかしらに分散している。結果として、その才能を必要とするひとは誰でもみな、それがどこで見出せるかを知りさえすれば、自分の欲望を満たせるかもしれない。しかしそれを知ることが困難なのであり、この困難は社会が大きければ大きいほどさらに増大するのである。さまざまな商品を取り扱う店主の場合を例にとつて、このことを説明しよう。自分の倉庫にものが多くあればあるほど、みつげやすいように整理されていない限り、お客の要求に応じようにもいよいよ混乱してしまつて、応じられなくなつてしまつのである。

独創的なモンテニーニは三十四番目のエッセイで次のようなことを述べている。

「我が父は経験と生まれながらの才能以外になんの取り柄もない人間であつたが、それでもなお非常に確かな判断のできるひとであり、前に次のようなことを私に語つたことがある。つまりなにかを必要とするひとが足を運び、専門のお役人によつて自分の用向きを登録してもらへるような特定の場所をあらゆる都市に設けるといふ事業を導入してみよつと考へたのだと。たとえば真珠を買つてくれる商人はいないかと尋ねたり、真珠を売ろつとするとはいないか尋ねるのである。ある人はパリへ一緒に行つてくれる連れを求め、ある人はかくかくの資格をもつ召使いを求め、またある人は雇者を求め、ある人はこれこれの熟練工を求め、あらゆる人が自分の望みにしたがつて、ある人はこれを、またある人はそれをとつた真合にである。そしてこつこつたお互いの宣伝といつたものが公共の伝達や情報にとつて馬鹿にできない利益となることは疑いないのだ。といつのも互いに求め合つてゐるのに、双方の要求を知らないがためにひとひとが非常に窮乏状態におきざりにされるといふことがあるのだ。」

こつこつたことを元にして、現在ひとつの事務所がサザンプトン通りの近く、セシル通りの向かいのストランド街に作ら

れている。その意図するところは、いわば世界をひとつの場所に集めるということである。ここでは買い手と売り手、雇用者と学者、雇用者と徒弟、そして雇用者と奉公人が確実に会うことになる。ここでは色々な種類の才に富むひとたちが彼ら喜んで雇おうとするひとたちと出会うだろうし、鑑識眼のあるひとたちには芸術の力こそが生み出すあらゆるものが与えられるのである。ひとことで言って、社会のなかにある有用な才能はどれひとつも無駄にはならないだろうし、自分が買いたいとか処分したいと願っているものを売ってくれる人や買ってくれる人になかなかめぐりあえないということもないだろう。しかるに目下のところは、多くのひとたちが他人にとつて非常に役にたつし、またその他人が彼に対して十分報いることもできるし、するつもりでもあるような、そういうた才能を有しながら、満たされない状態にあるのだ。さまざまな品物や珍品を所有している人たちがいるのだが、他人がそれを求めることはできないのだ。ほとんど推奨するところのないような人物を、紳士が急いで雇い入れざるをえない一方で、最良の特性を持つ奉公人が失業したままだったりする。同じような調子で、売り手と買い手は闇のなかで互いを探り探すのである。しかもしばしば多大なる時間と苦労とお金を使ったのち、全く無駄に終わってしまうのである。しかし一般のひとびとに対してひとつの案を押し付けることはせず、(その案から彼らが多く之恩恵を受けることは明らかだが)、私はここで彼らに対して、すでに公開されたそれぞれ個別の項目のもと、その事務所の性格と計画について説明しよう。

一、売却予定の不動産の登録には、その不動産の質と量が記録される。即ち自由保有不動産か借地か謄本保有不動産か。屋敷か土地か家屋か貸家かなど。その不動産がある州、最寄の都市や市場町、価格と売り手がその不動産を推奨するに適當と考えるその他あらゆる点。その不動産がある教区について、また不動産の名前や売り手の名前について言及するかしな

いかは売り手の判断次第である。この登録は一シリングの料金でなされる。たった三ペンスの料金でもって、たとえばヨークシャーなど、どの州にせよ不動産を買いたいと思つ紳士は自分が購入したい不動産の特質をあげれば、そういった不動産が登録されているかどうか、たちどころにして情報を与えられるのである。そしてもし登録されていなければ、もう一シリング支払つことによつて彼の宛名が事務所に登録され、彼が求めるような物件が登録されるやいなや、報告がただちに彼に送られるのである。

このようにして二人の当事者あるいは彼らの直近の代理人がすぐに引き合わされることになる。特段の出費はなにもなくと言つてよいだろうし、中継ぎ人を雇つたり公に広告を出すことで不動産の評判を落としたりといった危険や犠牲をばらうことなしにである。広告は四丁二十倍の経費がかかるが、たった一日限りのものである。また広告はひとの状況を近隣のすべてのひとに曝け出すことになるにもかかわらず、その広告が当て込む肝心の人物には、気付かれない可能性もあるのである。

二、貸問、貸し地所、貸し家の項目に、(もしそれが貸し地所であつたとすればその地所の)特徴・広さ・貸し賃・状況などなどを登録する。もし家なり部屋なりの場合は、家具付きかどうかとか部屋の数などを記録する。都市であるならその家が立つ通りとか便利さのすべて、郊外であるなら町なのか教会区なのか、庭があるのか、どんな庭か、離れ屋なのか、位置・景色・交通の便。その他言及されたあらゆる細かいこと、そして可能ならば賃料も。これに対して我々はわずか六ペンスしか求めない。そして物件を探す人からは前項同様三ペンス求める。

この項目の公的有用性はほとんど指摘するまでもなく明らかである。多くのひとたちが六ペンスの料金でもって、自

分たちの部屋を賃貸するの何週間も何ヶ月も、時には一シーズンまるごとをも無駄にしたりしなくなるのである。その一方で紳士淑女たちはロンドン、ウエストミンスターのさまざまな通りや田舎の教区全体、町全体で賃しに出ているすべての家・部屋をたちどころにして概観できるのである。こついつた便宜が欠けているために、紳士淑女は目下のところ自ら時間をかけて実り無く歩き回ったり馬車に乗ったりすることを余儀なくされているのである。さもなければ知り合いや奉公人の趣味に（時には彼らの忠誠心にとつて荷が重過ぎることのだが）任せざるを得ないのだ。そして気に食わない用地を契約してしまったあとになって、彼らの心を完全に満たすのに適したであろう場所を獲得しそこなってしまったことに気付くというのは残念なことである。

第三の項目のもとには、不動産担保にせよ保証人にせよ、財産のあらゆる種類の担保が登録される。そしてまた多額にせよ少額にせよ提供する資金を有するひとたちの名前も登録される。そうすれば借り手と貸し手が、なんの出費も遅滞もなく、一度に会することになるのだ。保証人をとつて少額を理にかなつた条件で貸し付けたいと思つひとたちが登録されるし、また借りたいと思つているひとたちは、もしここで借りられないのならば他のどこへ行つても駄目だろうと確信することになる。

四、教会関係にせよ行政関係、軍関係にせよ、売却されるかなんなりと提供される予定の地位と勤め口。たとえば牧師職であるとか牧師補職・免許による職や、その他いかなる行政府の部門であれ軍隊の任務であれ、所有者が処分する許可を得ている職などである。そうすることで、仲買業者によって名前が触れまわれ、うまくいった場合には高額な謝礼の支払

いを余儀なくされるといったことなしに、地位や任務を処分したいという意向が、それについて彼らと取引したいと願っているひとたちだけに知られることになるのだ。そして契約が整ったことにもなつて出費や謝礼金はなにもないのである。

五、どのような商売であれ雇用者を求める徒弟、および徒弟を求める雇用者。選択される商売、若者の年齢と資格、与えられる報酬、要求される年季がここで登録される。六ペンスでもって雇用者は百人の徒弟から選択できるし、親は自分の子供のためにやはり百人の雇用者のなかから選択できるのだ。

六、なんらかの学問や技術を教える教師・女教師。彼らが学校を経営している場合、何を教えるのかとか料金はどれくらいかなど、諸事情が登録される。彼らが外国で教える意志がある場合は推薦状を何通か、それに言語・音楽・ダンス・剣術など、彼らが何を教えるのか、料金はいかほどかなど。

七、商売の仲間。融通する準備がある金額と条件。詳細に。

八、あらゆる種類の使用人。例えば調馬師や帳簿係、職人、財産管理人や事務係、家令・侍従・従者・執事・料理人・庭師・御者・従僕・厩番・騎手などのような家事奉公人、女性家庭教師・家政婦・侍女・調理手伝い女・女中・洗濯女・保母に乳母などなど。この題目のもとには名前・居住地・資格・年齢・既婚か未婚か、天然痘にかかったかどうか、以前どこにどれくらい住んでいたかが挿入される。性格についてあらゆる細かい点もつけて。紹介者についても。どのような詐

欺をも妨げるべく最大の注意が払われるということ、そして自分自身に関していささかでも疑わしいような説明をするような人や、どこかいかげんがわしい場所に住んでいたような人はひとりとしてこの事務所に登録されるものではないということとを人々は確信してよい。この項目ひとつでも人々に対していかに大きな役に立つかは、人々の考察にゆだねられよう。この項目が実行されるにあたっての誠実さを示すために、我々はすでにこの事務所で欲望を満たされた何百人ものひとたちの経験に訴えてもよいかもしれない。その人たちの多くから我々は感謝の書状を受け取っているし、誰ひとりからも不満の言葉を聞いていない。しかしながら、この機会を借りて我々が望むのは、紳士淑女のみなさんが使用人を何かひどい欠点のゆえに解雇した場合、一ペニー郵便でこの事務所に「ご通知いたたく」ということである。そうすれば、そんな風な使用人はここでは登録させることはしないと堅く約束する次第である。

九、あらゆる種類のモノがここに登録される。商人が自分たちの店の広告を、そして（特に服地商や毛織物商の場合は）商品の見本を、紳士淑女が目をとめる可能性のあるこの事務所に送るのは、彼らにとつて非常に有益なのではないかということを一考願いたい。そして上記の見本はどれも、この事務所からどこかほかへ送られたり、商人たちが自分自身の店で喜んで見てもらおうとするような人々以外のひとに見せられたりはしないということを確認してもらつていいだろう。中古品もここで同様に登録される。特に馬車やランドー型馬車、早馬やその他の軽装馬車のようなあらゆる種類の乗り物である。また馬とか犬、野生動物や鳥といった有用なまたは娯楽のためのさまざま動物も。あらゆる種類の骨董品も登録される。

十、最後に、海路・陸路でのあらゆる種類の旅行の便。どこ行きにせよいつ出発にせよ乗客の契約条項つきの船。乗合馬車。宿泊する旅籠。出発・到着の日時と料金。バスその他あらゆる場所への臨時馬車・往復馬車。到着予定・出発予定および料金。同様に陸送にせよ水上輸送にせよ、モノを輸送するあらゆる方法。駅馬車の乗合仲間など。

この項目は確かに説明も推薦も必要としない。片や船の船長や乗合馬車・臨時馬車の馬主にとって六ペンスといったわずかな額でもって乗客を決して逃さないと確信することはなんとも有益なことにはない。また他方、人々にとっては町のご真ん中に位置しているから遠く離れているはずがないこの場所に使いをやるだけで、しかも三ペンスの料金でもって、行かねばならない場所への旅の便をことごとく知りうるということは、なんと簡単なことたるうか。

以上がこの事務所すでに公開されている主たる項目である。情報をできるだけ広めるといふことが意図されているので、これに対してはおそらく時間と経験がさらなる付け加えをおこなうだろう。人々がこの事業に対して当然の激励を与えるだろうことは疑いない。この事業が彼らのために目論まれたものであることは明らかで、かつこれほど安価に供せられているのだから。

我々の側に関して言えば、この事務所を運営するのは紳士たちおよび事業の経験者たちなのだから、最大の注意と規則正しさ、誠実さ、そして常に関係者自身によって望まれる秘密厳守をもって仕事は遂行されるだろうことを確信してもらってよいだろう。

この事務所の大きな利点は、そのニュースが広まれば、誰にとっても明らかにになるにちがいない。実際、その有用性はもっぱら広まることにかかっている。そしてそれはすべて人々の力にかかっている。だから公益のためのあらゆる計画においてと同じく、これにおいてももし賢明で公共心をもった人が指揮をとるならば、他の人々もみなきつとそれに従うことだろう。